

会報ふれあい

No.72

令和6年11月1日

発行・編集 青少年育成牛久市民会議

事務局 生涯学習課 TEL.873-2111

カレー作り、うどん打ち、キャンドルサーブスでの一体感 雷雨に遭っても、完璧に楽しめた第35回ふれあいキャンプ

運営がとても行き届いていた
さしま少年自然の家

今年の第35回ふれあいキャンプは、茨城県猿島郡境町にある「さしま少年自然の家」で行われました

た。参加したのは牛久市内の小学校5・6年生28名と青少年育成牛久市民会議の役員・ボーイスカウト指導者・市事務局職員18名の合計46名でした。

た。ボーイスカウト指導者のリードで並んだ子供たちの列が格別きれいな整列になったことに感動している市民会議役員もいました。付き添う大人たちに対する子供たちの受け答えが、とてもしつかりしていることに目を細めている親もいました。



全体写真も表情の良さで勝負

が選ばれたのは、昨年行った白浜少年自然の家が好評だったため、今年も茨城県内の同系統のキャンプ施設2カ所を下見したところ、さしま少年自然の家は、設備だけでなく運営管理もとても行き届いていることが、下見をした人全員の目にはつきりと見て取れたので、その場ですぐに決定されました。

8月20日午前9時30分、出発式は例年どおり中央生涯学習センターのロータリーで行いました。バスで歌の練習。子ども感想に感心する大人

10時、バス2台で出発。車酔いしやすい子供たちは2、3列目の座席を与えられました。バスの中では早速歌の練習が始まりました。キャンプファイヤーで最初からなるべく上手に歌えるように、あらかじめ練習しておくのです。歌は「燃えろよ燃えろ」「スイカの名産地」「TOTOの歌」などです。女子児童の1人が「TOTOの歌を創った人の発想はとて素晴らしい」と感想を述べると、それを聞いた大人の1人が「こういう受け止め方ができ、且つそれをきちんと自分の言葉で言える子どもの表現力が素晴らしい」と感じ、そのことを広報「ふれあい」の報告原稿に反映すべく手帳にメモしました。さしま少年自然の家に着くと、そこは広大な森に囲まれた約12万8千平方メートルの敷地の中に、キャンプ場、野外炊飯場、キャンプファイヤー場、緑の広場、土の広場、宿泊棟、研修棟、管理棟はもとより、動物広場、釣り池、水遊び場、蛍の生息地、ローラースケート場、プラネタリウムなどまである自然の中の施設でした。



整然と並んで出発式

新聞紙半分に6人乗る遊び 挑戦し成功したチームも

11時30分「はじめのつどい」で田井会長はみんなに「キャンプを十分に楽しむよう」呼び掛ける一方で「熱中症に気を付けるよう」注意を喚起して、キャンプ生活が本格始動しました。

各自持参の弁当で昼食を済ませると、直ぐに緑の広場に移ってゲームが始まりました。テーブルの上に置かれた物を新聞紙で覆って



ボーイスカウト指導者が今日の活動計画を話してくれています

隠し、そこにある物を幾つ覚えていられたかを競うキムスゲームなどに加えて、今回は、地面に置かれた新聞紙1ペーヅ分に、6人の班員が全員乗れるかどうかを競うゲームも行いました。

突然の雷雨
ゲームが終わると子どもたちは、各班ごとにキャンプファイヤーでの出し物の練習に入りました。キャンプファイヤーでどんな寸劇を演じるか、自分たちで考え、それを披露するのです。

こうやってキャンプファイヤーに向けた準備が着々と進んでいた午後4時過ぎ、雷がゴロゴロと鳴り始め、微風ながら風も吹いて来ました。10分ほどして小降りながら雨も降り始めたので、第2屋根付き野外炊飯場で待機し、雷雨の状況把握に努めました。

かまどの火起こしに筋肉と大脳の機能フル活用
子どもたちにとつて、キャンプファイヤーが無くなったことはとても残念なことでした。しかし、カレー作りに取り組むことで、子どもたちにはその残念さを一気に忘れさせてしまう新しい体験の時間が始まりました。まず、子どもたちの心を強くとらえたのは、かまどに火を起こす作業でした。この作業はさしま少年自然の家の管理運営に当たっている元学校の先生たちの指導の下に進められました。



ジャンケンゲーム。負けた人は引つまなければなりません

火を起こすには、新聞紙などに点けた種火を乾燥した細い木材などに移し、最後にはかまどに積み上げた角材などの太い薪が安定して燃えるようにしなければなりません。

種火が燃え尽きる前に太い木材に火を移すには空気すなわち酸素を補給するために、団扇で扇いだり口で息を吹きかけたりしなければなりません。

しかし、空気の送り方が強すぎれば、種火は吹き飛ばされて消えてしまうし、弱すぎれば送られる酸素の量が少なすぎて、火勢を強める効果はありません。

子どもたちはこの作業を成功させるために、うちわを持つ腕の筋肉を最適に動かすべく、大脳から送られて来る指令に最適に従うための努力を最大限に行っているように見えました。

カレーは5時40分ごろには出来上がりました。みんな班ごとにテーブルに付き、副キャンプ長の「いただきます」の発声に合わせて合掌し、食を始めました。普段は「カレーは苦手だ」と思うことが多かった子どもも、自分たちで作ったカレーは「おいしい」と感じたようでした。この時点では雨は完全に止んでいました。キャンプファイヤー場に行つて恨めしそうに天を仰ぐ人もいました。

全員一体で盛り上がった牛久アレンジの阿波踊り

キャンドルサービスは7時から8時30分まで行われました。入場する際、大人も含めて全員にロースクが配られました。田井会長の扮する火の神が松明に擬した棒に火を点けてキャンドルスタンドに

立てると、辺りが広く照らし出されました。今年は火の神のコメントはありませんでした。これは静寂さをさらに「シーン」とさせる効果がありました。

キャンドルサービスは7時から8時30分まで行われました。入場する際、大人も含めて全員にロースクが配られました。田井会長の扮する火の神が松明に擬した棒に火を点けてキャンドルスタンドに

これは「ヤットサー、ヤットサー」の声かけでスタートし、その後は「エライヤツチャ、エライヤツチャ、ヨイヨイ、ヨイヨイ」を繰り返すだけの見単純そうに見える踊りです。これが今年も非常に盛り上がりました。1、2分後には子どもたちも、みんな輪の中に入つて来て、その踊りがいつまでも続きました。どうしてこんな単純な踊りがふれあいキャンプのみんなの心をとらえるのか。大人の中には考え込んだ人もいました。

まず誰でも感じるのは、阿波踊りのお囃子と手ぶり身振りへの親近感です。飾らない剽軽なお囃子の所作が生み出す素朴な善良感と垣根の低さ——子どもたちはそれをいち早く感じ取つて大人たちの輪に入つて来たのではないかと。

そして、そこから生まれる、日頃滅多に経験することのない大人も含めた、みんなとの一体感。子どもたちはそれがとても大切な体験であることを、意識・無意識の

うちに感じ取っていたのではないか。

伸び伸び楽しめたから 仲間づくりも巧くいった

こういうことを大人たちに考えさせてキャンドルサービスは終わりました。しかし、これでキャンプ第1日が終わったわけではありませぬ。子どもたちは自分たちが眠る宿泊室に行つて、その広さに感動していました。風呂に入つて浴室の大きさ、立派さにも感動しています。

部屋では盛大な枕投げが行われました。夜10時の消灯時間になつても女子部屋がうるさいと、男子部屋からクレームが出て大人たちが注意しました。大人たちは「女子たちは楽しさのあまりのびのびとした気分になり、一層の仲間づくりができたようだ」と考えて、キャンプ第1日が終わりました。

2日目、子どもたちは6時40分ごろには動き始めました。「おは



新聞紙半分に6人が上るにはかなりの知恵が必要です

ようございます」と自分の方から挨拶する子どもが多く、大人たちは「家庭の教育がしっかりしているのだ」と感じる一方で、「そういう心があるからしつかり挨拶できるのだ」と考える人もいました。

朝食後、9時にはつどいの広場で班ごとの全体写真を撮りました。つどいの広場から歩いて2分ほどの所に動物広場があり、クジャク、ウツケイ、シャモ、ウサギ、アヒル、ヤギなどがいました。子どもたちはみんな声をかけて、動物たちの反応を確かめていました。

小学校の先生の指導で 初めてのうどん打ち

10時から工作室で昼食に食べるうどんを打ちました。各班ごとに自分たちが食べるうどんを作るのです。大人も自分たちのうどんを打ちました。子どもも大人も1時間半ほどで打ち終わることが出来ました。うどん打ちも県の教育委員会か

ら出向している小学校の先生方に指導していただきましたが、子どもたちにとってはカレー作り以上に興味の湧く作業だったようです。

うどんは小麦粉に適量の水を混ぜ、それをよく捏ねて作るのですが、水の量はあまり多くないので、それを粉全体に行きわたらせ、生地としてまとめるにはかなりの根気と力が必要です、子どもたちにとっては見た目以上に大変な作業のようでした。手で捏ねるだけでは力が足りないのです、その場合は足で踏むのですが、その作業を、子どもたちはみんな面白がつてやっています。

うどんの作文に現れる パン作りの生活体験

うどんを作るときコシを強くするために、小麦粉を捏ねて出来た生地を一定時間「寝かせる」こともありますが、この工程が長かったことを作文で指摘している子どももいました。その際子どもは寝かせる」という言葉ではなく「はっこう」（発酵）という言葉を使っています。

そのことを知った高齢の主婦は「その子のお母さんは、きっと自宅でパンを作っているに違いない。その際、小麦粉のグルテンを引き出すために発酵させるとい言葉を使っているのだ、その子はうどん作りでも「はっこう」という言葉を使ったのだ」と解釈しました。うどんの場合は生地を寝かせる。

パンの場合には生地を発酵させる。この言葉の使い分けがあることに気づいた広報部会員は、子どもが自分の生活の中の誰も気づかないところで新しい言葉を覚えていく姿を思い浮かべて、しばらく感動していました。

広報部会員の中には、さしま少年自然の家が県の管轄の下に、元学校の先生などで構成するNPO法人によって運営されていることに注目する人もいました。子どもに注目する人もいました。子どもに教育に携わつたことのある人たちが運営することで、単に施設を管理運用するだけでなく、子どもたちの心をより深く耕せるノウハウ付きで施設を提供する。そういう姿勢がこの施設を下見した時の「管理運営がとても行き届いている」という印象と強く結びついて

いることを感じ取つたからです。午前11時50分、ほとんどの班がほぼ同時にうどんを完成させ、みんなでランチ。うどんが、子どもたちにとつても大人にとつても格別な味であったことは言うまでもありません。昼食後しばらく休憩し、午後2時、さしま少年自然の家を後にしました。途中、道の駅さかいで



テーブル上の物。新聞紙で隠された後幾つ覚えていただけますか

お土産を買い、4時30分に中央生涯学習センターに帰着しました。

「終わり良ければ全てよし」ことわざ通りのキャンプだった。今回のキャンプでは「雷雨がおさまつてキャンプファイヤーが出来る状態だったのに……」という声も一時はあつたようです。しかし作文を読むと、子どもたちはカレー作りやうどん打ち、出会つたばかりの子どもたちとのコミュニケーションなど、初めての体験を1つ1つこなすことに一所懸命で、キャンプファイヤーが無かつたことが尾を引いたような記述は全くありません。「終わり良ければ全てよし」ということわざがありますが、今回はそれがピッタリ当てはまるキャンプだったのでではないでしょうか。

楽しかったふれあいキャンプ

8/20~21 於さしま少年自然の家
参加者46名(協力者含む) 作文提出者28名

1班 モスキートチーム

うどんの作り方の疑問

ひたち野うしく小

六年 廣瀬 奏多

僕が一番心に残った出来事は、うどん打ちです。うどんの作り方で最初にこねるとき、塩がありませんでした。「うどんに塩を入れてもよっぽくならないのか?」と思いました。全くとしょっぱくありません。

そして、専用の包丁を使つてうどんのきじを切りました。「普通の包丁と何が違うのだろう」と感じたので、調べてみようと思いましたが、それを生かして、家でもうどんを作つてみたいです。そして、初めて会った友達ともたくさん話せていい経験になりました。



人参、玉ねぎを切る程度ならお手の物

たのしかったふれあいキャンプ

ひたち野うしく小

六年 高橋 結葉

私がふれあいキャンプでたのしかったことは2つあります。

1つ目はうどん打ちです。うどん打ちでとくにたのしかったことは、こねているときです。こねているときは、みんなで順番にこねて、だんだんかたまってきたのがたのしかったです。

2つ目は、道の駅さかいです。道の駅さかいではみんなでおそろいのものをかいました。あとソフトクリームをみんなでたべました。めっちゃおいしかったです。あと弟とおじいちゃんにおみやげをかいました。弟にはキーホルダー、おじいちゃんにはおちよこをかいました。

私はこのキャンプをとおして、たくさんの子と仲よくなれて、きずなをふかめられました。またこのようなきかいがあれば参加したいとおもいました。

思い出のキャンプ

中根小六年 平野 明莉

私は1泊2日のふれあいキャンプに参加しました。思い出に残ったことが2つあります。

1つ目は、他の学校の子との交

キャンプでたのしかったこと

牛久二小五年 森本 尚太郎

ぼくが今回のキャンプで楽しかったことは夜にまくら投げをしたことです。夜に仲間といっしょにとまることができてとても楽しかったです。火おこしのよもぎも木の組み方をしました。その火でカレーを作りました。カレーはぼくは火の番やさらふきなどをしました。料理は上手な人と不器用な人がいると思いました。

キャンプで楽しかったこと

向台小五年 せき そつた

ぼくがキャンプに行つて楽しかったことは2つあります。

1つ目は、ごはん作りです。ごはん作りではみんなで役わりを決めて、協力して作って、みんなで楽しく食ふことができたからです。



いよいよこれから自分たちで作ったうどんを食べ始めます

無題

神谷小五年 溝井 りな

2つ目は、よるのマクラ投げです。マクラ投げでは、みんなで投げあつたり「声を出しちゃダメ」というルールを加えたりしてマクラ投げをしたりしてみんなでたのしむことができました。

楽しかったことはうどん作りです。うどんを作ることは、家でもめつたに出来ないことだったので、グループみんなで協力してうどんが出来上がり、すごくいい経験になりました。

心に残ったことはじを見れたことです。じはカレーを作つて

2班 サザエさん

ふれあいキャンプで

楽しかったこと

中根小六年 榊原 健真

キャンプを体験して、楽しかったことが2つあります。1つ目は、キャンドルサービスです。みんなを出し物を計画して、げきをやって、楽しかったです。



団扇を握るだけでなく脳の機能もフルに使うかまどの火起こし

2つ目は、うどん作りです。1からうどんを作ったのは初めてだったので、難しかったですが、楽しくできました。最初はほかの学校の人たちがいて、心配したけれど、最後は楽しい思い出をつくって良い経験になったなと思いました。

私の大切な思い出

神谷小六年 古畑 杏奈

私がキャンプに行つて思い出に残った事は夜ねる時とうどん打ちです。

ねる時は最初へやのメンバーで仲良くなれるかすごい不安だったけどすぐに仲良くなれてうれしかったし、みんなめっちゃおもしろい人で安心しました。

うどん打ちはグループみんなで協力してやっただけですけどやっぱり大変でした。生地をこねる時は

班長さんや他の人が上手でびっくりしました。自分たちで打ったうどんはすごいんだ力やばかったし、けんかもしたけどおいしかったです。楽しんでました。

もう6年生で最後なのですごいかないけどまたこういうイベントがあったら参加したいです。2年間ありがとうございました。

私がふれあいキャンプで楽しかったこと

ひたち野うしく小 六年 長嶋 愛奏

私がふれあいキャンプで楽しかったことは2つあります。

1つ目は、カレー作りで行った火おこしです。元々私は火おこしをしたことがほとんどなく、どのようにまきをくべるとよいかなど知らないことが多かったのですが、ふれあいキャンプのスタッフさん達がいちいち教えてくださったので、とても楽しく火おこしできました。

2つ目は、うどん打ちです。ふだんからうどんを打つことはなかったのですが、案外こねるのが難しかったりして、つかれてしまいました。ですが、みんなで頑張つて作った分、今まで一番おいしくうどんを食べることができました。

小学校生活最後の夏、たくさんの人に支えられて、思い出多い2日間を過ごすことができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。



自分たちで作ったカレーはなぜ美味しいのだろう？

知ったこと

牛久二小五年 三上 稜太

ぼくは、ふれあいキャンプに行つて火おこしのしかた、布とんのしき方など、知ったことがたくさんあります。さいしょ火はおこせて、もえてたのですが、だんだん火が弱くなっていつてしまい、たいへんでした。だけど先生方がサポートしてくださり、またもえておいしいカレーができました。

このキャンプでは、友達とのつきあいかななど知ったことがたくさんあり、すごかったのしい2日間でした。

楽しかったキャンプ

牛久二小五年 及川 はな

私が一番心に残ったことは、カレー作りです。みんなと相談しながら力を合わせて、どうしたらいいかなど相談しながら作るのが

とても心に残っています。

楽しかったことはキャンドルサービスとキャンドルサービスの出し物です。キャンドルサービスは、火の神様がろうそくに火をくれて少しずつとけていくろうそくを見ると、心がうっとりして気持ちよかったです。

キャンドルサービスの出し物では、みんなで意見を出し合い、おもしろいものを作ろうと協力し合つたことが楽しかったです。

キャンプで

中根小五年 加地 さくら

私は、キャンプに初めて行きましたが、すごく楽しかったです。

最初は「友達、できるかな」とか「仲良く出来るかな」など、心配していましたが、やさしい人が多く、たくさん友達が出来ました。グループのレクリエーションも、協力して仲良く楽しく出来ました。グループのげきもみんな笑つてくれたので、とてもうれしかったです。

す。サザエさんチームサイコー！バスの中ではOTTOの歌やチクサクコールを歌いました。おもしろい歌で笑つてしまいました。とても楽しかったです。夕食のカレー作りもとてもおいしくてびっくりしました。みんなで協力して作ったカレーはやっぱりおいしかったです。

これでたくさんのおもい出ができました。また来年も行きたいと思えます。

3班 チームサマーズ

無題

おくの義務教育

六年 齋藤 幸雅

今回のふれあいキャンプでたのしかったことは、指導者さんが出してくださったゲームです。最初は完全にだまされていましたが、最後の問題は少しだけ分かったので、良かったと思います。

心に残ったことは二日目のうどん打ちです。こねたりのぼしたり切ったりとてもつかれましたが、とてもおいしいうどんができてよかったです。

キャンプファイヤーは天気などのえいきょうでキャンドルサービスになってしまいました。出し物は成功してよかったです。もう一年は行けないのですが、もう一回行きたいと思えるほど楽しい二日間でした。

ふれあいキャンプを通して

ひたち野うしく小 六年 菊池 柚風

私は、ふれあいキャンプを通して思ったことが2つあります。

1つ目は、友達との仲が深まる場所だと思いました。全く知らない学校もちがう子たちといろんな体験をしました。最初は仲良くなれるか不安でした。けれど時間が経つにつれたくさん話せるようになってきてうれしかったです。

2つ目は、やってみるといこう



窓の外には森が広がっていました

考えて作ったげきはみんなに笑ってもらってとてもよかったと思いました。

ふれあいキャンプはみんなで協力し楽しくできてとてもよかったです。

火おこしのくろう

牛久二小五年 郡司島 泰智

はじめてちゃんと火おこしをしました。はじめに火がついてもすぐきえてしまっていたへんでした。とちゅうで木をいれるタイミングがわからなくてたいへんでした。火がいつぱいついてけむりが目にはいつたいへんだつたし、なべを二つおけるように火を広げることがむずかしかったです。でもやっていると楽しくなりました。

楽しかったキャンプ

ひたち野うしく小

五年 埴 聡美

私がキャンプを体験して楽しかったことは2つあります。

1つ目は、カレー作りです。初めて作りました。自分たちで作ったからか、とてもおいしかったです。

2つ目は、うどん打ちです。こねるのは難しかったけど、私の班が一番「上手」と言われてうれしかったです。少しかためだつたけど、おいしかったです。とても良い経験になりました。

また来年も参加したいです。

4班 楽しく!!

楽しんだキャンプ

おくの義務教育

六年 荒井 庵

ぼくがふれあいキャンプでまなんだことは、キャンプには協力がとてもひとつようなことをしりました。とくにたのしかったのはカレー作りです。その理由は、たきびがおもしろかったからです。

へやにはいつたとき、ひろくてとてもうれしかったです。ふるはすこかったです。でもざんねんでした。理由は、さいごぐらいにはいつたので、せんせいたちとはいりました。

うどんうちでは、とてもたいへんでした。うどんこをまるめるのがいちばんつらかったです。そのあとのうどんをはっこうさせるのがながかったです。

ふれあいキャンプの思い出

ひたち野うしく小

六年 高田 宮夏

私のふれあいキャンプでの思い出は、4つあります。

1つ目は、カレー作りです。みんなと協力してカレーを作れたことが、とても楽しかったです。カレーを作っているときに、虹が見えてびっくりしました。

2つ目は、部屋です。初めての子どもと初めて泊まりましたが、仲間なれて、とても楽しかったです。3つ目は、うどん作りです。初



1匹1匹の可愛さもさることながら数が多いのがうれしかったウサギ小屋

あり、やさしい人や、おもしろい人など、さまざまなひとがいたのしかった。来年は、さんかできたらぜひさんかし、なががい仲間をつくりたいです。

ふれあいキャンプにさんかして

牛久二小五年 宮腰 大夢

ぼくは、ふれあいキャンプにさんかして、ほかの学校の人たちと会話することができてとても楽しかったです。

ふだん会話することのない人と話して笑ったりすることがないので、とても楽しくて、うどんやカレーをつくるときは、みんなと協力して作ったのでとてもおいしくかんじました。

さいしよきたときは、知らない人もいたけど、同じ学校の人もいいな、と思いました。

4つ目は、道の駅です。仲良くなった子たちと、おそろいのキーホルダーを買えたのでとてもうれしかったです。

ふえた友達

ひたち野うしく小

五年 鹿目 曜平

この経験を、今後の生活に活かしながら生活していきたいです。

キャンプ初日、ほとんど知らない仲間達。最初はだれもしらなく、きんちょうしたが、キャンプになれていくうちにふえていった仲間達は、1人1人個性が



厳かにキャンドルサービスが始まりました

無題

神谷小六年 百成 結花

私はふれあいキャンプに参加しました。私が楽しかったことはみんながうどん打ちをしたことです。みんなで協力して作ったうどんは、とてもおいしかったです。

もう1つはみんなだけできをしてことです。みんなで1から台本を



うどんの生地を延ばすには手つきの良さも重要です

て、あんしんしたのですが、ほかの人と話すことがもともと楽しかったこともあってほかの人としゅ味がおなじだとその話でもりあがつて、とても楽しかったです。そして道のえきでなにを買うかどうもまよってけつきよくぜんぶつかってしまいました。

雨がふってキャンプファイヤーができなかったのはざんねんだったけど、じぶんたちで考えたネタをひろうするのはなかなかにおもしろくてたんじやないかと思えました。あと、ほかの人が考えたネタもなかなかカオスで、おもしろかったです。

もらった紙をなくしてしまい、

この紙に書いていますがとても楽しかったです。また来年も、さなかしようとしています。さちような体験ありがとうございました。

キャンプの思い出

岡田小五年 鈴木 志帆

私は8月20日と21日にふれあいキャンプにいきました。まず最初はさしま少年自然の家についたらお弁当を食べてレクリエーションをしました。レクリエーションではわつかをくぐるやつと物をさがすやつなどをやりました。一番たのしかったのはわつかをくぐるやつです。2回やってどっちも1位だったのうれしかったです。夜



うどん作り、ここまで伸ばせれば完璧です

無題

神谷小五年 國谷 卯衣

ふれあいキャンプに行つて、嬉しかったことや楽しかったことが5つありました。1つ目は、友達が沢山出来たことです。そのうちの一人とは、メールなどでやりとりが出来るくらい、仲良くなれました。2つ目は、皆でカレーを作ったことです。いつもは、カレーが苦手だけど、キャンプの時は、いつもよりも美味しかったです。3つ目は、皆と動物を見た時です。皆と兎を見ていて、少し、距離が近づいた気がしました。4つ目は、

はカレーを作りました。カレーは外で作ったことがなかったし、かまども使ったことがなかったの楽しかったです。カレーもおいしかったです。2日目はうどんつくりをしました。うどんをつくるのは初めてで、手でこねると足でふむのが楽しかったです。おいしかったです。

キャンプにまた行きたいです。

皆と道の駅に行つた時です。皆とお揃いで「おこじよ」というキーホルダーを買いました。色違いのものもあって、すごく可愛かったです。道の駅では、みんなアイスクリームを食べました。皆で食べる美味しかったです。楽しい時間は、あつというまで、すごく残念でした。最後に一番心に残っているのは、うどん打ちでした。皆で協力して、美味しいうどんが作れました。少し硬かったけど、すごく美味しかったです。来年もまた同じように、楽しめたら、嬉しいですよ。



うどん作りは、腕だけで足りない場合は足で踏みます

5班 AKTチーム

ぼくの思い出

ひたち野うしく小 六年 飯野 慶哉

ぼくがふれあいキャンプを体験して楽しかったことは、3つあります。

1つ目はバスの中でのみんなのお話を聞いたり、話したりしたのが楽しかったです。

2つ目は夜のマクラ投げです。理由は部屋の中でみんなと本気で勝負をしたことです。となりの部屋の人から苦情がくるくらいでした。そのあと、その部屋でも枕投

げが始まりました。

3つ目は夜のレクです。理由はAKTチームの劇をみんな披露し、がんばって成功できたのがうれしかったです。

(親から一言)

当日、初めて会つて仲良くなつたお友達と普段経験出来ない貴重な体験を沢山させてもらい、大満足で帰ってきました。参加できてほんとに良かったと、本人も親も思っています。ありがとうございました。

あまりできない体験

神谷小六年 鎌田 彩加

家や学校では出来ない体験がたくさん出来て楽しかったです。初めて会つたと友達と意見を交かするのほきんちようしましたが、たくさん話せて仲良くなれたのうれしかったです。

夜に初めてキャンドルサービスをしました。とてもキレイで、各班の出し物やレクも楽しくて、今も心に残っています。



さしま少年自然の家はこういう森の中にありました

最後のご飯は手打ちうどん、人によってめん太さが違って楽しんでました。小学生最後の夏休み、忘れられない良い思い出が出来ました。



これからいろいろなゲームをして遊びます

初めてのうどん作り

ひたち野つくし小

六年 橋本 楓音

私のふれあいキャンプの一番の思い出はうどん作りです。水と小麦粉から作るの初めてでした。うどんをこねて丸くしていくには力が必要で、手が痛かったです。丸めたうどんを平たくのばしていくときは、ぜんぜん広がってくれなくて、手が真っ赤になりました。うどんを切るときに細く切っていたら班の友達がとても太く切っていて、火が通るかなと心配でした。ゆで上がったたら、とても美味しく出来ていてうれしかったです。

無題

牛久小五年 中澤

まず最初に楽しかったのは、樹



2日目の活動は朝の体操から始まりました



これから輪っかくぐりを始めます

スでいろんな人とバスに乗れたことです。二つ目に楽しかったことは、自然にふれあえたことです。あんまりきれいな自然にはふれあえないからです。三つ目に楽しかったことは、弁当を食べたことです。四つ目に楽しかったことは、カレーを作るとき火をつけたことです。

早めに終わったのに全員が終わる

うどん作り

牛久二小五年 高木 月帆

キャンプで一番楽しかったのは、うどん作りです。生地をこねるのが大変でした。わたしのはんは一人少ないので、食べ切るのが大変でした。

太い麺も細い麺もあってたべるのが楽しかったです。うどんはとてもおいしかったです。いっしょにあつたちくわ天を食べるともつとおいしくなりました。今度は家で作りたいです。



これから帰途につきます

各部会の活動経過と今後の活動予定

社会環境部会

社会環境調査活動(年2回)

花の植栽(11月・3月)

中央生涯学習センター・

牛久消防署・牛久地区交番

家庭環境部会

親子ふれあい教室

期日…12月15日(日)

場所…中央生涯学習センター・

奥野生涯学習センター

親子ふれあい映画鑑賞会

期日…3月9日(日)

場所…中央生涯学習センター・

文化ホール

編集後記

ふれあいキャンプの作文の中で毎年かなりの数の子どもたちが「初めて出会ったよその学校の子どもと友だちになれた」といったエピソードを紹介します。いろいろな人と良いつながりを作り人間関係の輪を広げていくことは、大人にとっても一生の努力目標です。ふれあいキャンプは子どもたちがそれを意識する非常に貴重な機会になっていることを、子どもたちの作文が思い出させてくれます。

